

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102542
法人名	社会福祉法人愛心会
事業所名	グループホーム桜
所在地	鹿児島市下福元町9085番地 電話 099-210-8655
自己評価作成日	令和4年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く緑深き山々に囲まれ四季折々の花が苑庭に咲き季節を皆さまで楽しむ事が出来、静かな環境である。各部屋に洗面・トイレが付いて間取りも広く、毎日掃除し清潔に気配りして入居者様が過ごし易い環境に努めています。理念の「みんなで ゆっくり 楽しく」で毎日出来る様にサポートし、安心して生活出来る様に心がけています。コロナ禍で面会を控えていた時もありましたが、月一回のお便りで写真をのせて現状報告し、面会も柔軟な対応で、感染防止に気配りしながら、取り組んできた年でした。救急・急変対応及び火災訓練も年3回実施しております。また、AED設置もしており、すぐに使用出来る様に訓練・研修を行っています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市谷山支所から5キロほど離れた自然豊かな下福元町笠松地区の一角に平成13年に開設されている。平屋建ての2つのユニットは玄関の渡り廊下で繋がっており、日常的に利用者同志の交流や職員間の連携、協力が図られている。広い敷地には桜や多種の木々が植えられ、同法人のケアハウスやディサービス事業所が隣接して設置されており、これらの事業所は常に情報を共有し、災害時の協力体制を構築している。少し離れて小学校や商店、団地、個人住宅等があり、開設以来、地域との円滑な交流が図られてきているが、現在はコロナ禍に配慮して面会は制限し、イベントへの参加、ボランティアの受け入れ等も自粛している。

管理者及び職員は、地域密着型サービス事業所の意義を踏まえた理念とケアの目標「みんなで、ゆっくり、楽しく」を設定して、利用者の尊厳や人格、想いを大切に安全なケアに努めており、また、その人らしい生きがいのある暮らしとなるように、心身の状態や生活習慣等にも配慮しながら意向に沿って趣味の取り組みの支援にも努めている。利用者のペースを尊重し、常に「自分が受けたいケア」「自分の親にしてあげたいケア」に取り組んでいる。利用者及び家族からの意見や要望等を、ケアの中や面会、電話等で汲み取り、全員で協議して改善に繋げており、アンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、お互いに気軽に意見を言い合える良好な人間関係を構築しており、日頃の業務の中やカンファレンス、申し送り等で忌憚なく意見や要望を出し合って運営やサービスの改善に努め、また、勤務シフトには有給休暇取得や個人的事情等にも配慮し、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。介護福祉士の資格取得のバックアップに努め、法人による給与体系も充実し、職員のモチベーションアップに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	台所・トイレに理念を貼り目につくようにしている。入居者様中心で「ゆっくり 楽しく」支援出来る様に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、ケアの目標「みんなで、ゆっくり、楽しく」も設定して目に付きやすい玄関横やリビング、トイレ等に掲示し、日頃のケアの中やカンファレンス時に振り返りや実施状況の確認等も行っ周知を図っている。理念に沿って利用者が安全でその人らしく暮らせる支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域の行事等の中止があり、参加出来なかつたりもしたが、町内会に加入し、清掃作業は今年は実施されたので参加し、地域の皆様と交流図れた。	町内会に加入し、地域の清掃活動への参加や園庭の散歩時には隣接事業所の利用者や職員と挨拶を交わし、地域住民から農産物等の差し入れ、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談への対応等で円滑に交流している。コロナ禍のため現在は、買い物、外出、外食、ボランティアの受け入れ、ホームの行事への住民の参加等は控えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍の為に職員・地域の人々に会う機会がほとんどなかったけれども民生委員を通じて情報を伺い出来る範囲での応援等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為に会議が年度初めは困難であったが、コロナ感染対策をしっかりと行い、民生委員・市保護課の方や長寿あんしん相談センター等参加して頂き情報を得てサービス向上に活かした	会議は、家族、民生委員、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、新型コロナウイルスの感染状況によっては一堂に会することは控えて書面での意見交換に変更している。利用者の状況やホームの運営、行事、感染症予防、防犯対策等を議題にしており、寄せられた委員からの情報や意見はカンファレンス等で検討して改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鹿児島市保護課の方に悩み事等相談を行い協力・アドバイスを頂き連携出来る様に努めている。	市の担当者とは窓口に出向いたり電話で、介護保険の更新や各種制度の報告及び協議、感染症予防に関すること、生活保護受給中の利用者（6人）の処遇に関する調整等を行い、助言や指導、提案を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市や長寿安心相談センターからの情報の把握に努め、運営やサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、月1回のカンファレンスで職員に問題があるか確認している。研修を行っている。拘束しない様に職員間で声かけ・見守りしケアに努めている。	身体拘束や高齢者虐待については「身体拘束適正化の指針」を整備し、計画的な研修の実施で認識を共有している。適正化を図る身体拘束委員会を毎月開催し、カンファレンスも実施してケアの確認等に努め、拘束の無いケアに取り組んでいる。昼間は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や寄り添い、散歩等で安定を図り、センサーマットの使用には家族の同意を得ている。職員の不適切な発言等には、その都度、場を変えて注意や助言を行って改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで勉強会を行い職員同士・お互いに虐待していないか確認、見逃さない様にし、気づきの時には話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで勉強会を行い理解出来るにしている。必要な方は施設長と話し合い活用出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者が行っており、家族に細かい説明を行い、理解・納得して頂いた中で契約して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時・電話連絡の際に意見・要望をお聞きし、改善・解決出来る様にし、職員間で話し合い、周知に努めている。記録にも残す。	利用者や家族とは気軽に意見を言って貰える関係づくりに日頃から配慮している。利用者の思いは日常の会話で、また、コミュニケーションが難しい利用者からは表情、仕草等でくみとり、家族からは面会（窓越し）や電話、手紙で把握している。毎月のお便りや写真を添付した「桜便り」でも実状を伝え、意見等を貰うように取り組んでおり出された意見要望はカンファレンス等で協議して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全て解決した事を職員には伝えられるため意見・提案等を聞いて貰えない事が多くある様に思える。もっと、カンファレンス等で話し合いして、改善・反映させられる様になると良い。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めており、日頃の業務の中やカンファレンス時に意見や要望を出し合い、また、個別面談も行って働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。ケアに関する助言・指導やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情も配慮し、職員の資格取得のバックアップにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足が続いており、十分に休みもなく、欲しい時の希望休みが取りにくい。有給が1/10達成する為に取っている状態で、有給の取り方の見直しを。労働時間は残業手当は申請するとしっかり支給して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍のため研修や勉強会が減っているが、リモートでの参加が少しずつ増えてきている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で、意見交換の場に参加出来ないが、落ち着いてきたら参加し、刺激を受け仕事に活かしていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・家族の方よりお聞きし安心して生活ができる様に不安の軽減になる様に話し易い雰囲気を作る。思いや要望などを引き出して挙げられる様な信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をお聞きし、宛からも月1回の宛だよりで様子・手紙で状態をお知らせし、コミュニケーションを図っている。出来るサービスを説明し要望に添える様に関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人様の意向をお聞きし、「その時」に必要な情報をふまえた上で必要な支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の意見を尊重し、関わりを持つ事で、安心して楽しく生活出来るように共に生活している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かな事でもご家族に連絡して情報の共有を図り、又、ご家族の面会時には現状を報告し、ご家族の協力のもと生活が出来る様に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会中止の時期もありましたが、玄関で少しでもお互いの顔が見られる様に工夫して関係が途切れない様に努めてきている。電話でも話して頂いている。	利用者ごとの馴染みの関係情報を把握しており、感染予防対策を徹底したうえで窓越しでの短時間の面会や隣接事業所の利用者や職員との交流、訪問美容、ドライブにより馴染みの街並みや公園、自宅周辺を車窓から楽しんでいるが、コロナ禍に配慮して、一時帰宅や、買い物、外泊、会食、外食、ボランティアの受け入れ等は控えている。家族との電話や手紙等を取り次ぎ、また、お便りや「桜だより」等で利用者の状況を伝える等、可能な限り関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間のトラブル発生しない様に職員が間に入り対応している。リハクや食事等、一緒に行う事でコミュニケーションが図れる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはいつでも連絡下さいとご家族にお話しており、連絡頂いた時には、出来る事は対応している。又、苑外でお会いした時にも必要な相談の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を観察・見守りながら、希望把握に努め、ご本人様に合ったケアを行なえる様支援に取り組んでいる・	入所時の情報や、日頃の会話、表情、仕草等から利用者の思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら利用者主体の生きがいのある生活となるように取り組んでいる。趣味（ぬり絵、音楽やテレビ視聴、読書他）や洗濯物たたみ、お盆拭き、床のモップ掛けなどの取り組みも、利用者の意向や心身の状況に配慮しながら個別に支援し、その成果には感謝等の言葉を添えて自己肯定感の修得に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族に聞いたりして情報を得て、暮らし易い様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定・排便・食事・水分量チェックを行いながら、異常のある時は職員間で共有し対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話合ったり、担当職員間で話し合い、ご本人様に合った支援計画を作成されている。	日頃の関わりの中で利用者や家族の思いや意向を把握し、主治医の指示やモニタリング、カンファレンス時の職員の意見等を基に、残存機能や楽しみ事等にも配慮した利用者主体の介護計画を作成している。利用者の状況変化時には計画を実態に沿って変更しており、ケアの実施状況は介護日誌やバイタルのチェック表等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録で情報を共有して良いケアを心がけ、情報共有している事で同じケアが出来る様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場・その場で、今必要な支援に対応出来る様に。又、ケアプランに添った支援に取り組みながら柔軟なサービスが出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 <small>ハイツの春のレクリエーション</small> 地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんと話して運営推進会議にも参加して頂いた。が、その他地域の方々とは口喧嘩で関わる事が出来なかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に訪問診療・受診時に相談し家族への報告を行っている。週1回の医療連携の看護師の方にも相談し、アドバイス等頂き良好な関係が保っている。	入所前の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、5医療機関を主治医としている。定期的な通院や訪問診療が実施され、また、週1回の訪問看護では衛生面の助言や利用者の健康管理、疾病に関する相談等も行っている。他科受診については感染症予防対策を徹底して家族が同行している。協力医療機関との医療連携の体制が構築され、健康状態を家族にも密に報告しており、利用者及び家族の安心や信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定で、体調管理を行い、週1回の訪問看護時には状態報告し処置して頂いたり、アドバイスを受けたりして支援体制が整っている。緊急時にも相談・指示頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族から病院（入院中）の様子を聞いたり、又、病院の相談員を通じ状態把握し、情報交換を行っている。支援看護師からの連絡も頂けている。。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対してはご家族や本人様の思いをお聞きし医療連携を図りながらカンファを行いチーム支援を。最近では、重症化したら、すぐに退居の方向性になりがちかもしれませんが、これからも出来る範囲での支援をしていきたい。	重度化や看取りの対応については指針を整備しており、入所時に利用者及び家族に説明して同意書を貰っている。入所後も利用者の状態変化に応じて意向の確認や話し合いを実施し、重度化した時点で主治医や訪問看護と連携して可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、現在も看取りケアを実施中の利用者がある。看取り実施後は、ケアの振り返りや意見交換を行なって、スキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスで勉強会を行いAEDを設置してあるので使い方を学んでいる。マニュアルに基づき応対しご家族にも入居契約時に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに基づき、火災・地震・水害時とそれぞれ昼間・夜間帯と訓練を行っている。消防署員に立ち会って頂き、問題点・アドバイスを頂きながら対応を学んでいる。	夜間発生を想定した火災や風水害、地震対応の災害訓練を年3～4回（内1回は消防署立ち合い）実施している。また日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、災害の報道を話題にして防災への認識を共有している。食料や飲料水は7日分程度を備蓄し、カセットコンロやラジオ、懐中電灯等も備えている。隣接の住民や同法人の事業所との災害時の協力体制も構築されている。サスマタを備えるなど不審者対策にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷付け無い様に心がけ、一人一人に合った言葉かけや、個々の表情を見ての対応をし人格を尊重し支援を行っている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの保護、個人情報の対応については研修の実施や意見交換等で認識を共有しており、重要事項等にも明記されている。利用者の個性や習慣、心身の状態等に配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めており、ホームはプライバシーに配慮した構造になっている。入室時は声掛けやノックを励行し、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の声を聞く様に努め、意見を引き出せる様な声かけを行いご本人様の思いを聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望・ペースを考えての支援をしている。マイペースでの生活を楽しんで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問カットして頂き、個々のADLに合った方法での支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、ご本人様の好物を取入れ季節感のある温かい食事の提供に心がけている。又、個々のADLに合わせた食事形態で提供している。	食事は利用者の何よりの楽しみで関心も深いことから、好みや形態、季節感、盛り付け、代替品等細かに配慮したメニューで提供している。節句や恵方巻、敬老会、クリスマス等の行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ、仕出し弁当、金柑の砂糖漬け、漬物作りなど工夫しており、利用者も食材の下処理やテーブル拭き等を楽しみながら手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、摂取量が少ない方は主治医へ相談しエンシュア等処方して頂いている。水分も様々な味で楽しんでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のADLに応じたケアで、毎食後口腔ブラシや舌ブラシ等で清潔保持に努めている。又、訪問歯科対応も依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位保持出来る入居者様に対してはなるべくトイレ使用して頂く等個々のADLに合った声かけを定期的に行う。又、おむつの方も定期的に変え陰部清拭や洗浄など行い清潔保持し支援している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに応じた支援をプランに反映させて改善に取り組んでいる。各居室にトイレが設置されており、昼間は声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援している。介護用品やケアの方法等を工夫し、便秘の予防に植物繊維の多い食事や水分の摂取、運動量に配慮しており、状況によっては主治医にも相談して下剤等で対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物の工夫や歩行出来る方は廊下を歩いて頂いたり体操を行っている。又、主治医に相談して下剤処方でも対応したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々のADLに応じた入浴支援で、その日の体調に合わせて入浴したり、入浴拒否等された時には声かけ工夫して時間を空けて入浴して頂いている。	基本週2～3回、個浴での入浴を支援しているが、必要に応じその都度、清拭や洗浄で保清している。順番や温度、時間、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応して楽しんでもらっており、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いのしないで、清拭への変更や時間、声かけ等を工夫するなど、利用者自身の意欲を待って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて休息・ベッド臥床して過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診ノートを見て、服薬情報を得て、誤薬のないように職員間で名前・日付を声を出して確認して服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々での出来る事での手伝いや楽しみを持って頂き、日課として取り組んで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での外出は控えているが、病院受診の時には、ドライブする等して気分転換を図っている。天気の良い時には、敷地内の散策を職員同行で行っている。	コロナ禍の制限はあるが、感染予防対策を徹底し、利用者の状況に応じて周辺の散歩や園庭での日光浴、通院、また、ドライブにより神社や公園街並み等を車窓から楽しむなど工夫して外出している。一時帰宅や買い物、外泊、外食、墓参等は控えている。地域のイベントの殆んどが中止され、ホームの行事も十分には実施できない現状であるが、室内での軽い体操やゲーム、カラオケ、音楽・ビデオの視聴、園庭での金柑狩り、木や花を手折って活花を楽しむ等工夫してリフレッシュに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想等が見られる入居者様がおられるのでご家族の協力を得て預かったお金は施設で保管している、必要な品物は購入出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時は、電話対応や感染対策を行いながら、玄関等での窓越し面会で合ったり、喚起対策中での対応。家族からの手紙をご本人様に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔保持している。季節に合った飾り付けや入居者様の写真を行事毎に貼っている。共有の場所では、ご本人様のお気に入りのソファや場所で過ごして頂いている。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは、明るく余裕あるスペースが確保されており、テーブルやソファ、テレビ等が動線等に配慮して設置されている。利用者の作品や行事の写真、季節感のある活花等が随所に飾られて和やかな雰囲気である。清掃や室温、換気、整理整頓等を徹底し、感染症予防のための手指消毒剤等も設置されており、不快に感じる音や臭い等もなく、利用者は四季を感じながら好みの場所で快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者様で席・テーブルを同じにして会話して頂いている。又、廊下ワゴンにて日向ぼっこされたり窓の外の景色を見て四季を感じて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様が使いやすい様に家具の配置や写真・絵等飾ってある。家族より思いでの物を持って来て頂き置いてある。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室前に名前や写真を置いてありご本人様にもわかる様にしてある。又、トイレ内の手すりを使用して頂き安全かつ自立した生活・低床ベッド等ありその方に合った生活をして頂いている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない